

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 7年 6月 27日（金）14時00分～14時45分		
参加者	議題	
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	0名	3 入居者様状況報告
市職員	1名	4 身体拘束適正化検討委員会の議題について
地域包括支援センター職員	1名	5 質疑応答・感想
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会 議 録		
<p>1. 行事報告について</p> <p>《2025年5月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11日…母の日に行事を行いました。 ・16日…消防避難訓練(日中の想定)を行いました。 ・19日…入居者様のお誕生日会を行いました。 <p>《2025年6月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7日…感染対策委員会、感染症の訓練(今回は手指衛生)を行いました。 ・9日…バーベキューイベントを行いました。 ・16日…訪問理美容がありました。きれいさっぱりして頂きました。 <p>2. 今後の行事予定</p> <p>《2025年7月》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・七夕行事を行う予定です。 ・入居者様のお誕生日会を行う予定です。 <p>3. 入居者様状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者様9名（男性入居者0名 女性入居者9名） ・平均年齢 89歳（最低年齢者83歳）（最高年齢者98歳） ・平均要介護度 2.67 <p>4. 身体拘束適正化検討委員会の議題について</p> <p>議題「スピーチロックによる身体拘束を行わない為の介護」</p> <p>◇スピーチロックとは</p>		

スピーチロックとは、言葉によって身体的・精神的に行動を抑制することを言います。「言葉の拘束」とも呼ばれています。代表的なスピーチロックの声掛けは「ちょっと待って!」「ダメでしょ!」「動かないで!」「どこいくの!」などです。言葉によって相手の行動を制限したり、コントロールすることによって利用者様の言動や行動が止まってしまうことがあります。話したくても話せない状態や動きたくても動けない状態は、身体拘束に該当します。

グループホーム小町ではスピーチロックとは何かを常に意識して、言葉の重要性を相手の立場に立って考える様に徹底しています。普段何気なく声掛けをしている言葉の中にスピーチロックにつながるようなことがない様に努めています。職員間でミーティングを細目に実施し、チームで情報共有を行い、声掛けの内容を確認しながら業務に取り組んでいます。

◇介護現場では広義の身体拘束として「3つのロック」が定義されている

「3つのロック」とはフィジカルロック・ドラッグロック・スピーチロックのことです。フィジカルロックとは、物理的に利用者様の体を拘束して、動けないようにすることを言います。ドラッグロックとは薬物の過剰投与や不適切な投与を行うことによって利用者様の行動を抑制・制御することを言います。この2つのロックには、ある共通点があります。それは「道具がないと行えない」ことです。拘束する道具や薬がなければ行えませんので再発防止策を取りやすく、改善しやすいとされています。しかし、スピーチロックは違います。物理的に目に見えないロックであり、いつ誰がどこで行っているのかを明確に断定しにくい行為がスピーチロックです。スピーチロックの恐ろしい点は、

- ①スピーチロックは誰にでもできてしまう恐れがあること。
- ②スピーチロックを無意識に行っていることがあること。
- ③スピーチロックによって相手の尊厳を失わせ、意欲を低下させてしまうことが挙げられます。

◇スピーチロックは相手の意欲を低下させ、認知症の症状が悪化してしまう

「ちょっと待って!」「ダメでしょ!」「動かないで!」「どこいくの!」といった言葉掛けは、スピーチロックにつながる言葉掛けになります。それは何故かということ「指示や命令をして行動を制限し、自由に動けなくしているから」です。もしこのような言葉掛けを日常茶飯事に繰り返されていると、その先に待っているのは「尊厳の失墜」や「認知症の症状の悪化」です。症状が悪化すれば、利用者様の意欲は低下し、何もしたくなくなり、何も言わなくなってしまうことにつながります。また、徘徊が始まったり、不潔行為を繰り返すようになったりすれば、利用者様のADLも低下していき、症状や状態が悪化していきます。これらを防ぐためにも、スピーチロックがいかに恐ろしい行為なのかを日々意識して、職員は行動しなくてはなりません。

◇スピーチロックの対策ポイント

スピーチロック対策で推奨されているのは、言葉の言い換えです。柔らかい言葉で

丁寧に気持ちを伝えたり、説明や質問をしたりする言葉掛けになります。そうすることで利用者様の尊厳は守られますし、スピーチロックにつながらなくなります。

スピーチロックの言葉	言い換えの例
待ってて！	・～していますので、あと〇分待ってもらえますか？
ダメでしょ！	・どうしましたか？ ・一緒に〇〇しましょう
動かないで！	・一緒に行きましょうか？ ・どうされましたか？
寝てて！	・夜になりましたので、お布団に入りましょうか？
座っていて！	・順番に行きますのでもう少し座って待っていて頂けますか？

◇まとめ

スピーチロックは「言葉による身体拘束」です。何気ない言葉掛けでも、相手の心が傷ついていないか？相手がネガティブな捉え方をしていないか？もっと違う伝え方はなかったか？などを各個人が考えることが必要です。また、チーム間で話しあって啓蒙していくことも必要です。グループホーム小町では今後もスピーチロックを防止する為の情報共有や意見交換など、議論をしながら運営を続けていきます。

5. 質疑応答

ご質問①

現在空きはありますか？空きが出た際は埋まりますか？（ふたば地域包括支援センター様）

→現在満床です。空きが出た場合はすぐに次が決まるか、長く空いているか、その時のタイミングによりさまざまです。（グループホーム小町）

ご質問②

最近、ご自宅での介護よりも入所を選択されるご家族が増えている。今後も入居先の施設として紹介させて頂きたい（ふたば地域包括支援センター）

→その都度お問い合わせ下されば空き状況をお伝えできます。宜しくお願いします。（グループホーム小町）

ご質問③

他施設で大きな声をあげる職員がいるといった内部通報があった。これもスピーチロックになると考えられる。日常の介護支援の場面でスピーチロックはすぐに使ってしまう恐れがあるものであるが、小町ではどう指導しているか？（瀬戸市役所 高齢者福祉課様）

→耳が遠い利用者様に対して聞こえる様に大きな声で話すということは十分に考えられるが、その時の雰囲気や、相手がどう感じられるかが大切だと考えます。小町では遠くからお名前を呼ばない、伝えたいことがあるときはスキンシップをとりながら行うというように職員に指導しています。また利用者様からの要望にすぐに対応できず、待っていていただかなければならない時には必ず理由を説明するようにしています。「今別の方がおトイレを使っているので待って頂けませんか？」など。理由を説明したり、手作業などで気を紛らわせたりして、一方的な声掛けにならないよう気を付けています。(グループホーム小町)

6. 次回の運営推進会議開催予定日

2025年8月22日(金) 14:00～ 開催予定となります。